

解答

一

- 問一 ① 直筆 ② 器官 ③ 縮尺 ④ 石灰 ⑤ 裁〔つ〕
問二 ① エ ② イ ③ ア ④ ウ ⑤ イ
問三 ① オ ② オ ③ イ ④ オ ⑤ エ

二

- 問一 ウ
問二 イ
問三 ア 自然 イ いかなる害 ウ 対立
問四 I エ II ウ III ア
問五 ア 正しい イ 強者による都合のよい
問六 ア 個人の意志 イ 共有された世界 ウ むじゅん
問七 ア 本質 イ 存在
問八 ささまざまな連帯のなかでむじゅんと折り合いをつけ、共有された世界を築いていくこと。

三

- 問一 エ
問二 ア 補助付き イ 走れる ウ 練習
問三 a ア b ウ
問四 イ
問五 「僕」に助けてもらわず、自分の力で自転車に乗れるようになると強く決意している。
問六 よるけながら走ろうとする北斗の姿に、昔の自分が重なったから。
問七 このままだ
問八 ア
問九 エ

解説

二

問八 一つ前の段落で、「これからの社会ではさまざまな連帯が求められていく」「ここが必要になるのは：関係のなかにあるむじゅんをどう受け入れていくかであろう。そして、そのむじゅんと折り合いをつけることが可能な自分たちの共有された世界を、どう築いていくかである。」と述べられています。

三

問五 「今度は押さええないでよ」「いいから、見てて」という北斗の言葉や、「僕が近寄るのを制するような視線だった。立ち止まった父親を満足そうに見やり、再びベダルに足をかける」といった描写から、北斗は自分の力で自転車に乗れるようになると決意している様子がわかります。